

水道情報活用システム標準仕様研究会  
第2回 通常総会  
【第一号議案】

## 2021年度事業報告(案)

2022年4月21日

水道情報活用システム標準仕様研究会 事務局

# 1. 2021年度の活動計画および活動報告

- 1-1 2021年度の主な活動計画
- 1-2 2021年度の活動報告（概要）
- 1-3 2021年度の活動報告（部会）

# 2. 標準仕様書の管理・改定について

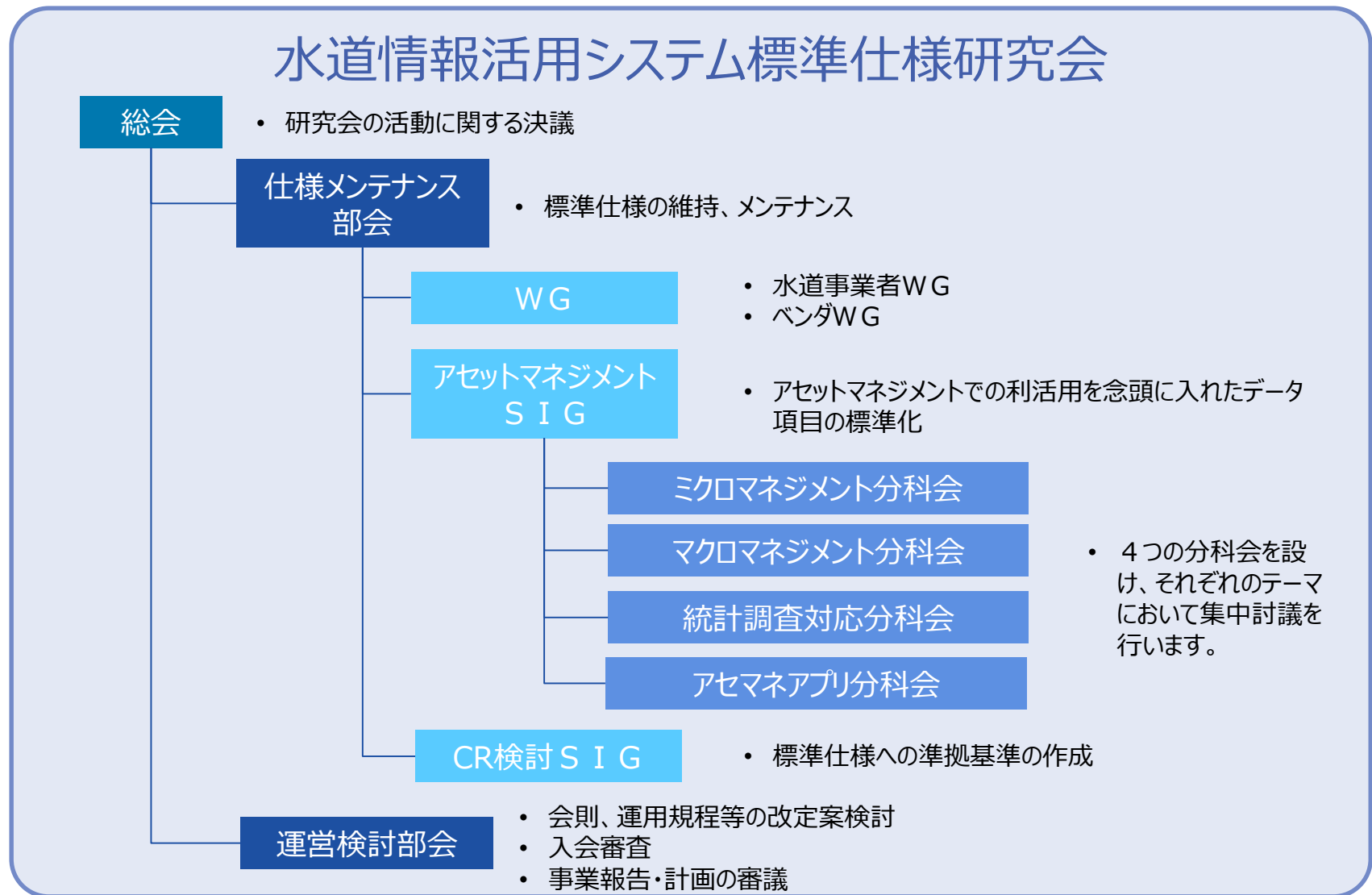
- 2-1 独自インターフェイスの暫定期間延長について
- 2-2 水道事業者WGの活動報告
- 2-3 ベンダWGの活動報告
- 2-4 アセットマネジメントSIGの活動報告
- 2-5 CR検討SIG・料金会計システムSIGの活動報告

# 3. 水道情報活用システムの普及活動について

- 3-1 ウェビナーの開催結果について
- 3-2 全国7カ所での説明会・個別相談会の開催結果について
- 3-3 官民連携協議会への参加について
- 3-4 水道情報活用システムで利用できるアプリケーションサービスについて
- 3-5 工業用水道事業の水道情報活用システムへの本格参入について
- 3-6 会員状況について

# 1. 2021年度の活動計画および活動報告

✓ 2021年度の活動として、以下を予定しておりました。



✓ 2021年度の主な活動は以下のとおりとなります。

会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
審査委員会							▲					▲
総会	▲										▲	
仕様メンテナンス部会					▲	▲				▲	▲	
WG	CR検討SIG (文書管理ルール) 審議		▲		独自IF 審議	独自IF 審議				SIG設置 審議	質問票 への回答 審議	
アセットマネジメントSIG	●————— ミクロマネジメント等											
CR検討SIG										●—————	準拠基準の 検討	
料金・会計システムSIG										●—————	データ項目等 の再整理	
運営検討部会	▲ 入会		▲ 入会		▲ 入会	▲ 資料審議		▲ 入会	▲ 入会	▲ 臨総の開催	▲ 入会	▲ 資料審議
普及活動	●————— 研究会主催の説明会を実施、水道事業者等を対象とした外部の説明会への参加、水道情報活用システム導入検討の参考となるような情報発信											
研究会主催の普及活動							▲ ウェビナーの開催		●—————	▲ 全国7カ所での説明会・ 個別相談会		
官民連携協議会への参加						▲ 富山開催	▲ 北海道開催	▲ 沖縄開催			▲ 山梨開催	
情報発信			▲ アプリケーション 一覧のHP掲載	▲ 施設台帳の整理 項目の公開								

✓ 以下のとおり、部会を開催しました。

## 概要

### 仕様 メンテナンス 部会

#### ■ 5回開催

- 第5回（2021.4.14 WEB開催）標準仕様書の文書管理ルール細則（案）
- 第6回（2021.8.18 WEB開催）独自IFの暫定期間延長（案）の審議
- 第7回（2021.9.21 WEB開催）審査委員会向け資料（独自IFの暫定期間延長）の審議
- 第8回（2022.1.19 WEB開催）CR検討SIG、料金・会計SIG設置について
- 第9回（2022.2.9 WEB開催）質問票への回答（案）の審議

### 運営検討 部会

#### ■ 11回開催

- 第6回～第8回・第10回～第14回・（WEB開催）入会審査
- 第9回・第15回（WEB開催）審査委員会向け資料の審議
- 第16回（WEB開催）事業報告・事業計画の承認

## 2. 標準仕様書の管理・改定について

- ✓ ベンダ殿によるアプリケーションの標準インターフェイス対応が普及・展開の途上であるため、暫定的に認められている「独自方式（独自インターフェイス）」での接続について、暫定期間を1年延長し2023年3月31日とすることで更なる普及促進を図ることについて、審査委員会にて承認を頂き標準仕様書の改定を行いました。

## <改定箇所>

対象ドキュメント（文書）：

ドキュメント識別子	ドキュメント名	エディション番号
WPSC005	水道情報活用システム 基本仕様書 別冊 水道標準プラットフォーム外部仕様書	Ed.1.1

変更内容：変更箇所に下線を付す。

改定前	改定後
<p>2.4.8 ベンダー参画を促すための措置</p> <p>事業者からは多くのベンダーの参加を期待されているが、ベンダー側からは特に「標準インターフェイス」などの対応を現状保有するアプリケーションに実施することが期間的に難しい可能性がある。</p> <p>その対応措置として、ベンダーのアプリケーションと水道標準プラットフォーム上のデータとの接続については、<u>暫定期間を2年として</u>、従来のベンダーの「独自方式」での接続を許可する方針とす</p>	<p>2.4.8 ベンダー参画を促すための措置</p> <p>事業者からは多くのベンダーの参加を期待されているが、ベンダー側からは特に「標準インターフェイス」などの対応を現状保有するアプリケーションに実施することが期間的に難しい可能性がある。</p> <p>その対応措置として、ベンダーのアプリケーションと水道標準プラットフォーム上のデータとの接続については、<u>暫定期間を2023年3月末として</u>、従来のベンダーの「独自方式」での接続を許可す</p>



✓ 以下のとおり、水道事業者WG活動を行いました。

## 概要

### 第2回 水道事業者 WG 開催概要

開催日：2021年7月1日（木）

参加者：水道事業者：会員16事業者、関連団体：3団体、プラットフォーム：1業者

内容：

- (1) DX政策の動向と水道分野の取組み（経済産業省）
- (2) 水道情報活用システムの導入状況等（厚生労働省）
- (3) 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況（研究会事務局）
- (4) 標準仕様書の改定手順に関するお知らせ（研究会事務局）
- (5) 先行導入事業者の導入事例について（岡崎市・奈良市）
- (6) 質疑応答

### 第3回 水道事業者 WG 開催概要

開催日：2021年11月17日（水）

参加者：水道事業者：会員17事業者、関連団体：3団体、プラットフォーム：1業者

内容：

- (1) デジタル産業政策の動向と水道分野の取組み（経済産業省）
- (2) 水道情報活用システムの導入状況等（厚生労働省）
- (3) 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況と今後の予定（研究会事務局）
- (4) 水道事業の広域化とダウンサイジング（菊池副会長（岩手中部水道企業団 参与（前局長）））
- (5) 質疑応答

✓ 以下のとおり、ベンダWG活動を行いました。

## 概要

### 第2回 ベンダWG 開催概要

開催日：2021年6月23日（水）

参加者：ベンダ：28業者、プラットフォーム：1業者

内容：

- (1) DX政策の動向と水道分野の取組み（経済産業省）
- (2) 水道情報活用システムの導入状況等（厚生労働省）
- (3) 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況と今後の予定（研究会事務局）
- (4) 水道情報活用システムで利用できるアプリケーションサービスについて（研究会事務局）
- (5) 標準仕様書の改定手順に関するお知らせ（研究会事務局）
- (6) 質疑応答

### 第3回 ベンダWG 開催概要

開催日：2021年11月24日（水）

参加者：ベンダ：28業者、プラットフォーム：1業者

内容：

- (1) デジタル産業政策の動向と水道分野の取組み（経済産業省）
- (2) 水道情報活用システムの導入状況等（厚生労働省）
- (3) 水道情報活用システム標準仕様研究会の活動概況と今後の予定（研究会事務局）
- (4) 質疑応答

- ✓ SIGを開催し、マイクロマネジメントについて議論を行いました。
- ✓ また、研究会会員の水道事業者様より、施設台帳情報をご提供頂き、重複などを整理し集約を行い、研究会HPへ公開しました。
- ✓ 水道事業者様からは各事業者が「項目の雛形」として利用することでデータの流通性(利活用)が担保されるとのご意見もあり、引き続き議論を重ねていく予定です。

水道情報活用システム標準仕様研究会  
Water supply standard platform specification committee

ホーム トピックス 会員専用ページ 標準仕様書(最新版)の公表 入会のご案内 会員一覧 研究会について お問い合わせ

水道施設台帳の整備項目案を公開しました

水道情報活用システム標準仕様研究会(会長:新 誠一)、以下「研究会」といいます。は、水道事業者様とベンダ様の知見を集約し、アセットマネジメントの高度な実践を図ることを目的にアセットマネジメントSIG※を開催しております。

この度、アセットマネジメントSIGでは、各水道事業者様から保有する台帳項目を提供いただき、ご協力いただいた水道事業者様が現在管理している項目ならびに水道情報活用システムの基礎データ項目を踏まえ、水道施設台帳のデータ項目案を整理いたしました。

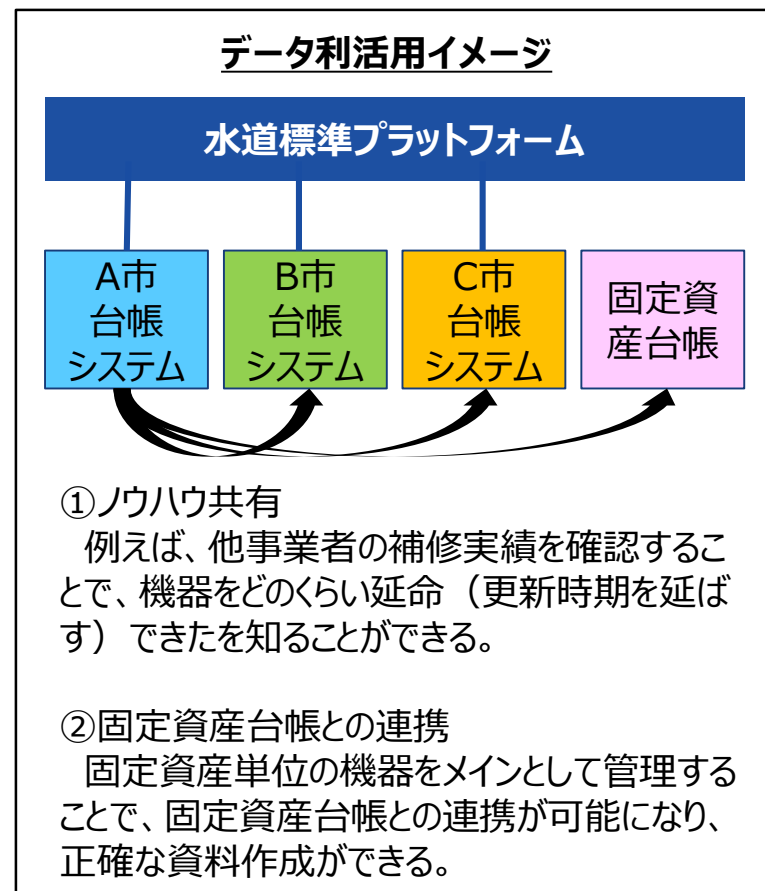
研究会会員以外の水道事業者様等からもご意見を広く募ることで、より良い内容へ改訂をしていって欲しいとの協力水道事業者様からのご意向もあり、一般公開させていただく運びとなりました。

ご意見は事務局宛(wssp-sc@jecc.com)にご連絡をお願いいたします。  
いただいたご意見は、研究会内で検討し、施設台帳項目案に反映いたします。

公開資料: 資料①施設台帳整備項目案 (Ed.1.1) (EXCEL: 286KB)  
資料②機器種別 法定耐用年数案 (Ed.1.1) (EXCEL: 51KB)  
資料③給水人口別 属性項目テンプレート案 (Ed.1.1) (EXCEL: 239KB)  
資料④階層・種別・属性(項目)整備案の概要説明 (Ed.1.1) (PDF: 728KB)

※アセットマネジメントSIGについて  
給水人口の規模、経営視点、水運用視点など、水道事業者様の状況や担当者様の立場によって求めているアセットマネジメントが多岐に渡ることが、水道事業者様へのヒアリングの結果確認されたことから、以下の4テーマの分科会を設定して議論を進めております。

1. ミクロマネジメント分科会
2. マクロマネジメント分科会
3. 統計分科会
4. アセットマネジメントアプリケーション分科会



掲載場所: <https://www.j-wpf.jp/>

- ✓ CR検討SIG（準拠基準の作成）、料金・会計システムSIGを新たに設置し活動を開始致しました。

SIG名	CR検討SIG	料金・会計システムSIG
活動目的	標準仕様書の準拠基準について、管理業務運用規定7.6に基づき、基準・条件等の文書化を行いたい。なお、議論については、関係者からの要望の多いアプリケーションから実施することとする。	料金・会計システムのデータ項目区分名について、データ利活用を念頭においた標準化データ項目の整理を行いたい。
参加メンバー	15 会員 (事業者2会員、ベンダ12会員、プラットフォーム 1 会員)	21 会員 (事業者4会員、ベンダ16会員、プラットフォーム 1 会員)
活動日	■ 第1回 (2022年3月7日 WEB開催)	■ 第1回 (2022年2月18日 会場・WEB開催)
活動内容	<p>① 準拠基準（案）の確認について 準拠基準（案）を基に対象範囲や準拠結果の公表方法についてメンバー間で意見交換を実施</p> <p>② 進め方について 意見集約のためにアンケートを実施、その後、WEB会議にて議論を実施し整理を行っていくこととなった。</p>	<p>① 標準仕様書記載のデータ項目・区分の確認 現在の整理状況確認とゴールイメージの意見交換を実施</p> <p>② 進め方のイメージ確認・共有 今後については、メンバーで確認したデータ項目の整理方針のもと、会計システムと料金システムに分かれて整理を行っていくこととした。</p>

### 3. 水道情報活用システムの普及活動について

- ✓ 水道事業関係者を対象としたウェビナーを、皆様にもご協力頂き、日本水道新聞社と共催にて9月7日に開催致しました。
- ✓ ウェビナーには、約300団体（うち水道事業者約150事業者）、約600名（うち水道事業者約250名）の方々にご参加頂きました。今後は更なる認知度向上と水道情報活用システムの理解促進を図ってまいりたいと考えております。

### <ウェビナープログラム>

○開会挨拶 新誠一 水道情報活用システム標準仕様研究会会長

#### 【第1部】水道デジタル化の動向

○基調講演「水道にDXがもたらす変化と水道情報活用システム」

石井晴夫 東洋大学大学院経営学研究科客員教授、東洋大学名誉教授

○講演「水道情報活用システムの導入状況等」

厚生労働省医薬・生活衛生局水道課 熊谷和哉課長

○講演「デジタル産業政策の動向と水道分野の取組み」

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 西川和見課長

○講演「水道情報活用システムについて」

水道情報活用システム標準仕様研究会事務局

#### 【第2部】活用事例とディスカッション 水道情報活用システムの活用法

○コメンテーター

石井晴夫 東洋大学大学院経営学研究科客員教授、東洋大学名誉教授

清塚雅彦 水道技術研究センター常務理事

菊池明敏 岩手中部水道企業団参与

○導入状況の事例：金沢市企業局、津幡町上下水道課

- ✓ 先行導入事業者である金沢市企業局様と津幡町上下水道課様より、導入事例として以下のような導入状況や課題についてご紹介いただきました。

事業者名	主なご紹介内容	導入システム	水道情報活用システム普及に向けた課題等
金沢市 企業局 様	・システム利用の現状	・台帳アプリ ・監視制御システム	・導入コストに関するシステムベンダー・プラットフォーマーのさらなる企業努力
	・導入背景		・システムベンダーのPF対応の遅れ
	・導入状況および今後の導入計画		・広域連携上での課題（契約ルールの壁、費用面）
	・データ利活用のイメージ		・データ利活用の具体的事例がない
津幡町 上下水道課 様	・導入経緯	・料金システム	プラットフォームに蓄積したデータの活用イメージの具体化
	・システム検討事項		
	・入札方法		
	・協議会での情報共有		
	・今後の導入予定		

- ✓ ウェビナー後のアンケートにて、以下のようなご意見を頂きました。今後の活動の参考とさせて頂き普及活動に注力して参ります。

＜主なご意見の抜粋＞

**Q** ウェビナーへの全体評価を教えてください。

- A**
- ・導入事例や、講師の方々の熱意を感じたので、前向きに検討したいと思えた。
  - ・金沢市、津幡町のリアルな事例を聞いた、小規模事業者の実例発表が大変参考になった。
  - ・アプリサービスベンダー側の意見も聞きたいと思いました。
  - ・まだまだ全国的な取り組みにするには、国の強力なサポートが不可欠だと感じました。

**Q** 水道情報活用システムを利用して、解決したい課題はありますか？（水道事業者への質問）

- A**
- ・施設台帳の標準化、施設更新計画、アセットの運用、健全な経営の維持・向上。
  - ・水道統計など、全国の事業者を対象とする調査の照会・回答・データベースとして活用。
  - ・広域化や事業連携。

**Q** ウェビナーで取り上げてほしいテーマ、内容があればご意見ください。

- A**
- ・広域化の事例や、同一自治体や複数事業者での他事業との連携事例紹介。
  - ・水道事業者によるDX化の具体的な取り組み。
  - ・水道スマートメータの導入事例や活用事例。
  - ・水道情報活用システムについて、他の事業者の状況。



- ✓ 全国7カ所の会場にて、水道事業者様を対象に、水道情報活用システムの全国説明会・個別相談会を開催し、多くの方々にご参加頂きました。

開催日	会場	参加者数	参加事業者数
2021/12/2	名古屋	36名	26事業者
2021/12/3	大阪	54名	30事業者
2021/12/7	福岡	35名	22事業者
2021/12/8	広島	15名	8事業者
2021/12/14	東京	38名	29事業者
2022/1/12	仙台	20名	12事業者
2022/1/14	札幌	25名	11事業者
<b>合 計</b>		<b>223名</b>	<b>138事業者</b>

※参加事業者数は、同じ事業者でも違う部署が申し込んでいる場合は別カウントとします。

## ■ 議事次第 (東京会場)

1. 開 会
2. 挨拶
  - (1) 厚生労働省 名倉 水道課長
  - (2) 経済産業省 渡辺 情報技術利用促進課長
3. 議 事
  - (1) 水道標準プラットフォームの推進に向けて (経済産業省)
  - (2) 水道情報活用システムの導入状況等 (厚生労働省)
  - (3) 水道情報活用システム標準仕様研究会について (研究会事務局)
  - (4) 水道事業の広域化とダウンサイジング (岩手中部水道企業団 菊池 参与 (前局長))
  - (5) 水道標準プラットフォームについて (株)JECC
4. 個別相談会



- ✓ 厚生労働省・経済産業省主催の官民連携推進協議会にて、研究会の紹介を行いました。

## 開催内容

令和3年2月4日時点

	開催 都道府県	開催日時	会場	資料
第1回	富山県	令和3年9月30日(木) 13:00~17:30	ウェブ会議形式にて実施	<a href="#">資料</a>
第2回	北海道	令和3年11月18日(木) 13:00~17:30	ACU-A(アスティ45) 【16F 大研修室1614】 「札幌市中央区北4条西5丁目」	<a href="#">資料</a>
第3回	沖縄県	令和3年12月10日(金) 13:00~17:00	沖縄コンベンションセンター 【2F 会議場 B1】 「沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1」	<a href="#">資料</a>
第4回	山梨県	令和4年2月8日(火) 13:00~17:00 予定	ウェブ会議形式にて実施予定	<a href="#">資料</a>

- ✓ 研究会会員のベンダ様より、水道情報活用システムで利用できるサービス・製品の情報提供を頂き、一覧として取りまとめ、研究会HPへ2021年8月に公開しました。
- ✓ 公開している情報は**33ベンダ76サービス・製品**（2022年3月時点）となります。

## 水道情報活用システム標準仕様研究会

Water supply standard platform specification committee

[ホーム](#) [トピックス](#) [会員専用ページ](#) [標準仕様書（最新版）の公表](#) [入会のご案内](#) [会員一覧](#) [研究会について](#) [お問い合わせ](#)

[ホーム](#) > [アプリ一覧](#)

### 水道情報活用システムで利用できるアプリケーションサービス

水道情報活用システムでの利用を予定している会員企業のアプリケーション一覧です。（2021年7月9日現在）

本情報は導入検討にあたっての参考情報であり、実際の利用にあたり、開発等、一定の調整期間を要する場合がありますので、詳細は各企業のお問い合わせ先にご相談ください。

※アプリケーション名の略称は以下のとおりです。

施設…施設台帳  
 マップ…マッピングシステム  
 アセ…アセットマネジメント  
 水道…水道料金  
 財務…財務会計  
 需要…需要予測  
 管網…管網解析  
 運転…運転監視  
 水質…水質監視

企業名	商品名	施設	マップ	アセ	水道	財務	需要	管網	運転	水質	その他	備考	お問い合わせ先
	上下水道料金調定システム				●								

掲載場所：<https://www.j-wpf.jp/application/>

- ✓ 2月に開催しました臨時総会にて、工業用水道事業の水道情報活用システムへの本格参画にあたり、会則の変更を実施しました。
- ✓ また、一般社団法人 日本工業用水協会殿に、特別会員として研究会へ入会頂きました。

種郵便物認可 日本水道新聞 毎週月・木曜日発行(週2回) 2022年(令和4年)2月17日(木)



(左から) 渡辺課長、塩手課長、新会長、名倉課長が総会に出席

会議には来賓として、工業用水道を所管する経済産業省地域産業基盤整備課の塩手能登課長、同省のDX施策を所管する情報技術利用促進課の渡辺琢也課長、厚生労働省水道課の名倉良雄課長、水道情報活用システム標準仕様審査委員会の事務局長を担う水道技術研究センター(JWR)の市川新誠一会長による進行のもと、議事では、経産省から工業用水道が参画するに至った経緯が説明された上で、会則の変更と特別会員の入会を承認した。

活用される。工業用水道分野における水道情報活用システム

58・9%の事業者が「他事業の導入状況を勘案し

## 水道情報活用システム

# 工水分野に展開開始

## 分野越え横断利用可能に

水道情報活用システム標準仕様研究会(会長 新誠一電気通信大学名誉教授)は、1日に臨時総会を開き、工業用水道事業の水道情報活用システムの参入を可能とするための会則変更、同研究会の特別会員としての日本工業用水協会の入会を全会一致で承認した。これにより、水源地と工業用水道分野でのデータプラットフォームの共有化が大きく前進。経済産業省と厚生労働省の協力のもと立ち上げたデータプラットフォームの事業分野を越えた利用環境がよりよいと見られ、水源地が主導して取り組んできたインフラDXの基盤構築に向けた転換点を迎えた。

「水源地、水道用供水給排水及び工業用水道事業」におけるデータ流通の基盤となるプラットフォームの標準化とデータの横断的な利活用の促進が研究会の活動方針として明確となった。水道事業、用水供給事業、工業用水道事業の類似する施設特性、事業特性を踏まえた効率率の向上とともに、工業用水道の独自性や標準仕様の見直し、分野を横断したデータ活用によるXプラットフォームの創出と普及展開が注目を集める。

工業用水道分野における水道情報活用システム活用への検討は、経産省が諮問する産業構造整備委員会地域経済産業分科会工業用水道政策小委員会での議論が昨年1月に公表した中間とりまとめにおいて、山積する課題解決に向けたデジタル技術等による広域化・民間活用促進の必要性が指摘され、その具体的な手法の一つとして水道情報活用システムへの参入が挙げられた。参入契機として、水源地事業との連携強化、複数事業者とのシステムでの共同調達・運用によるコスト削減をが期待されている。

経産省が全工業用水道事業者に実施したアンケートにおいて、工業用水道事業での水道情報活用システムの導入について13・6%の事業者が「導入を検討したい」、「58・9%の事業者が「他事業の導入状況を勘案し

発行所

**日本水道新聞社**

本社：〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-0  
 TEL 03(3264)6721  
 FAX 03(3264)6725  
 編集部署 TEL 03(3264)6722

大阪：〒541-0051 大阪府中央区律儀町3-3-8  
 TEL 06(6125)2630  
 FAX 06(6125)3866

<https://www.suido-gensuido.co.jp>



**明和工業**

水管橋 仮設配管

- ✓ 研究会会員は、2022年3月時点で78者となりました。構成は、水道事業者等25者、ベンダー44者、プラットフォーマー1者、特別会員8者となっております。

研究会の会員数推移

